



ほととぎす

お客さま、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか？緊急事態宣言が解除されたものの、第二波、第三波の懸念が現実味を帯び、予断を許さない状況が続いています。顕微鏡レベルで見ることができない、またどのような性質を持っているか解らない未知のものへの対応は非常に難しく、しかもそれが元で、いとも簡単に日常生活が狂われ、経済の混乱を招くかという経験をさせられているのが現状ですね。

当社もこの影響は避けられず今期は売上の落ち込みが大きくなるのが予測されたため、事業資金の確保が必須でした。そして感染対応策として全社員にヤクルト100を毎日配布、マスクと消毒用アルコールの配布、出社前検温の義務化、出張時の行動制約、社内換気・消毒・手洗いのアナウンスの徹底、仕入先の業者さんとの納品・検品時の対応、向かい合わせの席にビニールシートで仕切りなど諸々の対策を行い、その甲斐あってか新型コロナウイルスの入手が困難となるや否や、すぐさま女性社員が自主的に手作りマスクの製作を始め、社員だけでなく来客や納品に訪れる業者さんにもお渡しできるようなにして、その一部を区役所にも寄付し、喜んで頂きました。しかしまだ有効なワクチンが確定されていない状況であり、感染リスクが存在することは変わらないので、段階的な緩和を行いつつ、引き続き警戒は怠らないよう、注意を促しております。

今回のことで改めて「備える」ことの大切さを感じさせられました。私は日用品を常に買い置きしていて、マスクも母の通院の必需品であるため予備を持っておくのですが、従姉が来た時に「あなただけ買って置くの？」とあきれ顔をされてしまうこともありました。しかし今回はそれが幸いし、マスクもトイレトペーパーもそこそこ置いて置きがあったため、あまり焦らずに済みました。必要なものはある程度手元に置いておく、若しくはすぐに取り出せるところにストックしておく。これは企業も必要なことだと思います。もし「ジャストインタイム」方式を採用する場合、ひとたび調達に狂いが生じれば生産できなくなるリスクをどう回避するかという方策も併せておく必要があるわけですね。

また今回の新型コロナウイルスに伴う自粛が、期せずしてリモートワークへの踏み切りを加速させ、お店での飲食の代わりにUberEATSなどスマホを使った料理宅配の需要を後押しすることとなりました。今後は更に情報通信網が発達し、仕事や生活様式の変化が進んで行くことになると思われます。これが正しく運用されている限り、私たちはその恩恵に預かれるわけですが、一歩間違えれば個人のプライバシーはおろか社会的に大きな脅威にもなりかねないことを意識しておく必要がありますよね。そして、どんな素晴らしい技術でも踏み込んでほならない領域まで至らないよう「足るを知る」こと。この言葉は仏教の教えの中に出てくる言葉ですが、老子の書にも「人を知る者は智、自ら知る者は明なり。人に勝つ者は力あり、自ら勝つ者は強し。足るを知る者は富み、強(つ)とめて行(な)う者は志有り。其の所を失(う)ざる者は久し。死して而(しか)も亡(な)びざる者は寿(い)のちながし」とあるそうです。私はこういった書を読み込んで研究しているわけではありませんが、まさに現代においても重要なことだと感じています。

## ほととぎす

佐藤 弘

いにしえ人には本種の声がこの様に聞こえ、そのまま種名になったという。なにしろ万葉集に「暁に名乗り鳴くなりほととぎす…」と詠まれているのだから、異論をとえようがない。しかしウグイスより出番が多いとは、私には単にけたたましいだけのホトトギスのどこがよいのか、当時のインテリの美意識がよく分からない。

また、どの時代に誰が言ったのか、三人の天下人の気性を端的に表した「鳴かぬなら…」で始まる川柳にも本種が詠まれている。是非聞きたいと思う美声でもないのに何故なのか。納まりがよい五音だから当てたわけではなさそうだし、何か吉報を告げる鳥という言い伝えでもあるのか、矢張り何だか分からない。

そして夏目漱石の俳句「ほととぎす厠半ばに出かねけり」がある。文士の見識などを聞いてみたいとの、西園寺公望の招きを断る手紙にこれを書き添えたという。そちらの気ままなお考えに応じる積りはないと、全く品がよいとは言えない下世話な用件に例えて一国の宰相の誘いを断っている。私は流れを枕にして石で口をすすぐ、他人様の逆をやるへそ曲がりだと雅号を名乗る人物だけある。これも何故ホトトギスなのか。暮らしの中で声を聞く事が珍しい存在だったのか。石は枕にしたい頭にはこれも分からない。

かつて、鳴けば分かるが手にとっても識別が難しい幾つかのグループ…と述べた。本種とカッコウ、それに紙筒を軽く叩く様に「ポポ、ポポ」と鳴くツツドリ、3種もそれだ。私には即答は無理で、それぞれ目と下腹部の色、それに胸と腹の横縞の幅と間隔を確かめ、全長を計測しなければ判断できず、なおかつ雌雄は分からない。

何故ややこしいそっくりさんなのか。ジュウイチの稿で托卵習性に触れたとおり、小形のタカに似せた外見で脅し親鳥が逃げたどさくさに卵を産みつける、はったりをかます為にならなりたい。天はずい分罪な事をする。だが、生態系にそんなズルがいつまでもまかり通る筈がない。欧州のオオヨシキリはカッコウの勝手を許さず集団で追い払い、かつ、僅かな違いを見分けてテキの卵を巣から排除するようになったらしい。かつて米国のカラスがクルミ割りを始めた時期に、日本のカラスも同じ行動をとった先例がある。カッコウほかの横着者達よ、さあどうする。いよいよ年貢の納めどきが来るか。

この連中は渡りを急ぐ必要がないからのん気なものだ。窓を開け放すにはまだちょっと早い晩春の静かな夜更けに、読む本もなくなりしょうことなしに朝刊を読み返していると、ホトトギスがふた声鳴いて飛び去った。遠く万葉の奈良時代、千二百年も昔からその声は少しも変わってはいない、…と思う。

## ■【タンク製作と製造番号】

生産部工務主任 戸松 義秀

私は生産部工務で主にタンクの断熱、板金作業をしています。  
この会社に入社して、14年になります。しかし会社に入社する前は下請け社として10年間タンクの製作に関わってきました。

この24年間、始めた頃の製造番号はNo.1300番代で、今ではNo.6400番代まで来ています。製造番号はタンク以外にも付けるのでタンク自体で言えばNo.5500～No.5700あたりでしょうね。

私がタンク製作時、特に気を付けている点が二つあります。  
一つは板金作業でのキズやヒズミ等です。ヒズミなど製作完了後に見つけると、かなりショックを受けます。お客様にとっては新車と同じだと思います。

もう一つは「製造番号」です。製造番号はただタンクに分かる様につければ良いのですが、私の場合、見た目では分からない程度に少し右肩上がりに、「ゲン担ぎ」で下がる様付けています。たかが製造番号ですが、もし見る機会があればご覧下さい。

## ■【休日の楽しみ】



私の時間  
ペンリレー

生産部工務 竹内 政人

人に自慢のできる趣味は現在持ち合わせていませんが、悩んだ末に競馬にしました。  
現在はコロナの影響でネットでしか馬券が買えないのが苦痛です。競馬場で馬券を買い目の前で競走馬が走っている姿を見ながら一喜一憂したい所です。  
競馬は、言葉を変えるとギャンブルと聞こえとしては良いものではありませんが、『Blood Sports』とも呼ばれています。いわゆる血統です。  
競争成績の良い種牡馬と競争成績の良い牝馬から生まれた子供が必ずしも走るわけではないがこのスポーツの醍醐味かもしれません。  
先ほどのオークス(G1)の優勝馬もさほど筋力の良い馬ではなく1200万円で買い取られたらしいですが、すでに約3億円を稼ぎだしています。  
一概には言えませんが、繁殖牝馬の母の血が大きく左右されているともいわれています。一時ある配合の馬が走るという事で、乗馬であった牝馬が、繁殖牝馬になった例もあります。  
競馬の予想は人それぞれだと思いますが、血統から予想をするという楽しみもありますので、皆様もお小遣いの範囲で楽しまれてはいかがでしょうか。

ワッセ

## 中国の歴史ドラマは四字熟語の勉強だ



生産部 島貫 修一

以前に病院で検査結果の待ち時間に本を乱読していると書いた。その中の一冊「中華料理の文化史」に、中国は昔から床に座る生活だったが、唐の時代に西域から伝わった椅子とテーブルを上流階級が取り入れ、その後庶民にも普及したと書いてあった。その時は「ふーん、なるほど」としか思わなかったが、BSでドラマを見ていたら「あ、本当だった」と本の内容を思い出した。

それは中国の歴史ドラマ「武則天」。唐(618年から907年)の則天武后をモデルにしたドラマで、宮廷内での場面では女性たちが床に座って座卓で食事をし、皇帝が座椅子に座って碁を打っている。7世紀中ごろはまだ床に座っていたのだ。時代考証はしっかりしていると感心してしまった。

ドラマの舞台は魑魅魍魎(ちみもうりょう)が跳梁跋扈(ちょうりょうばっこ)し、美辞麗句の裏で陰謀・策略・計略・嫉妬が渦巻く唐の宮廷。才色兼備の主人公は孤立無援に陥っても堅忍不拔の精神で臥薪嘗胆しながら深慮遠謀し、時には呉越同舟もしながら権謀術数を駆使して皇帝にまで上り詰める。(あー、書いているだけで疲れる。四字熟語に「四苦八苦」これも四字熟語だ。)

史実に架空の人物・出来事をてんこ盛りにした物語は日本の大河ドラマや時代劇と同じで、娯楽番組として楽しませることに徹している。たとえば唐の時代の美人の基準は、ふっくらした顔とぽっちゃりした肥満体形だったはずだが、登場する側室・宮女たちは、均整の取れた体形の現代風の美人ばかりでまさに百花繚乱。もしも史実通りだったら視聴率(男性の)が最低で、放送打ち切りになったかも。宮廷内の家具・生活雑貨から服装・装飾品まで精緻に作られており、色が鮮やかすぎる気もしないではないが、当時の先進国の唐だったらあり得るかもと思ってしまう。

中国のドラマについて書くなら、カタカナ言葉は最少にして四字熟語を満載で書いてみました。書くのも読むのも大変ですが、少ない文字数で表現を豊かにできますし、才色兼備や百花繚乱などは、カタカナ言葉では表現不可能(基となる英語では文にしないと表現できない)。その他にも臥薪嘗胆と呉越同舟のように歴史の中で作られた熟語もあり、その奥深さに感心してしまいます。

## ◆ちょっと豆知識◆その44 「殺菌灯の恐怖」

技術営業部 取締役部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)

起こりたてホヤホヤの「事件」なのでここに記しておくことにします。

昨日(2020.6.8)、隣県のお客様のところを訪ねました。目的は昨夏お納めしたステンパネル廻室の、1シーズン使って発生した不具合の手直し作業で、でした。

外部業者さんの頑張りもあり作業はあっけなく終了。

先方の社長さんと外部業者の方をまじえ廻室内であれこれ世間話をしました。そう、「殺菌灯」の下で…。

時間にして30分程度でしょうか。

当然、学生時代にクリーンベンチとか使ってた人間ですから、UVランプの特性はある程度理解しているつもりではおりました。

が、考えてみますと、これまでの人生で「UVランプの紫外線を浴びる」ことを考慮したことはありません。

お客様と話をしている間、頭上で青い光が怪しく光っているのは承知していましたが、30分浴びた程度では影響が出るとは思っていませんでした。

異変に気付いたのは帰社後の16:00頃。

やけに顔のあたりが痒いな、赤くなってるな、汗をかいて外に居た時間があつたから、カモガヤの花粉が付着して持病のアレルギーが少し強めに出了か、くらの感覚でしたが、そのうち目がシバシバしてきました。

周囲のスタッフから「成田部長、すごい日焼けですね」なんて言われて「今日はそんなにお日様浴びてないけどなあ」なんて言っているとき、あの頭上の青い光が脳裏をよぎりました。

え?あの程度でこんななんの?

学生時代、冬山登るのにサングラス忘れて、雪目でひどい目に遭ったことがあります。夜はまさにその状態でした。

ネットで調べてみても、殺菌灯どれくらい浴びたら危険、みたいな情報は出てきませんでした。そりゃそうですよね、本来浴びるためのものじゃないんだから…。

一緒に行った業者さんに今朝話を聞きましたが「なんでか夜中目がしみてさあ…」と。彼は私より身長が10cmほど低いのですが、電磁波の減衰は距離の二乗に比例するという物理法則の教えの通り、彼は私よりもダメージが少なかった模様でした。

メンズケシミンで顔のシミのケアをしてもこれじゃあ元の木阿弥です。

短時間でも、人間が入室する場合は殺菌灯を消灯しましょうね。



## 釣りの話

基幹事業部 ト 角田 義秋

担当者からのたっでの依頼で「ジャンルは問いませんから何か投稿してください」という事でこれまで経験してきた趣味やスポーツでの逸話を数回にわたって投稿させて頂く事にしました。

私は、若い頃から多趣味、スポーツは何でも観るよりスポーツすることが好き。そんな中で今回は釣りの話をしたいと思います。

釣りと言えば当社では大御所がいて私の話など鼻で笑われそうですが・・・。

前置きが長くなりましたが、私が釣りを始めたのが20代半ば結婚当初、前職で横浜に住んでいた頃でした。家内も私も新潟出身ですのでお盆に帰省する際、家内の兄が釣りに連れて行くというので、横浜で5.3mの磯竿を1本買って帰省しました。この兄が釣りきちがいで仕事は郵便局の保険の仕事をしていたのですが、出勤前にクロダイ釣りに行く程でした。また、家内との結納の日も夜釣りに行って56cmのクロダイをお土産に持ってきてくれました。(遠い昔の話ですけど)

さて、帰省して初めて連れていかれたのが新潟東港の岸壁、兄の釣り仲間4人と一緒に行きました。到着して30分後兄が40cmのクロダイを釣り上げました。それを見て私は俄然ハッスルしたものの全然釣れずそろそろ帰ろうかという頃、突然私の竿が大きな弧を描いて引き込まれました。キター! と思って高い岸壁から下を覗くと、クロダイではなく30cm程のイナダ、それも2匹掛かっていました。兄が長い玉網ですくってくれました。その日の夜はクロダイとイナダの刺身で一献傾けました。それ以来、横浜へ戻ってからもそんなに本格的な釣りではありませんが、友達とアジやキス釣りに出かけるようになりました。

前職では某石油会社の製油所で交代勤務もやっていたので、周囲13kmある製油所の半分は横浜湾に面しており、そこには何ヶ所もの排水口があってクロダイやスズキ、メジナなど沢山の魚が集まります。排水も浄化された水が流されるので岸壁からワカメもとれます。

ただ、岸壁には海からの侵入者を検知するため7~8kmに亘り赤外線が張りめぐらせてあるため、保安担当に部分的に赤外線の電源を切って貰って深夜の休み時間に釣りをした事もありました。いけすで釣るように良くつれました。

横浜の石油会社を中途退職して新潟へ戻った現在も近場の岸壁などでアジやキス、イナダなどを釣って楽しんでいます。